

「河川・水防災技術分野」（平成30年度採択）

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
赤外線・弾性波を活用したコンクリートダム堤体のひび割れ・打継ぎ面の非破壊による可視化評価技術の研究開発	富山県立大学 内田 慎哉	B
<p><研究概要></p> <p>本年度は、赤外線サーモグラフィにより計測した熱画像と気象データを併用した大気-ダムコンクリート間の熱収支モデルを構築した。また、弾性波動解析を用いて、弾性波の入力や受信、信号処理を決定する方法も提案した。最終年度は、ダム堤体の浮き・剥離・打継ぎを対象として、上記2つの手法の妥当性を精査し、適用範囲・適用限界を明確にする。併せて、効率的・効果的にダム堤体の水密性を評価するための点検プロセスも提案する。</p>		
<p><事後評価指摘事項></p> <p>弾性波伝播シミュレーションによるダム堤体の非破壊評価への展開は、期待が持てた。ただし、検証やシミュレーションの有効性が不明である。今後における現場での検証や、最終年度の構想内容を引き続き検討していくことが望まれる。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
- B：一定の研究成果があった。
- C：研究成果があったとは言い難い。